

4-8		
サブテーマ名：マイクロ海洋生物の生理機能の探索と応用 難分解性生体高分子分解能を持つマイクロ海洋生物の探索と応用 小テーマ名：マイクロ海洋生物ライブラリー保存株の性格付け		
サブテマリーダー	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 助教授 児玉靖司	
研究従事者	長崎大学地域共同研究センター 助教授 竹下哲史	
研究の概要、新規性及び目標		
研究の概要		
収集、保存されているマイクロ海洋生物の中から、何らかの指標をもとに生理活性機能を有する生物をスクリーニングし、有効活用するために、産生色素、寒天分解能等、比較的簡単に知ることのできる生物の性状をもとに整理する。		
研究の独自性・新規性		
長崎県の周辺海域由来の微生物を現時点で約18,000株保存し、各株の特徴付けとして、微生物集落の色素、寒天分解能、殺藻性のデータを基にデータベース化し、マイクロ海洋生物の未知の機能探索のためのリソースとする。		
研究の目標（各フェーズ毎に数値目標等をあげ、具体的に。		
フェーズ	：既に分離・保存している海洋微生物に関して、これまでに把握している個々の性状に関するデータの整理。	
フェーズ	：新規に分離・保存する海洋微生物を含めたマイクロ海洋生物の性格付けによるデータベースの構築。	
フェーズ	：マイクロ海洋生物由来の種々の生理活性物質を探索するためのソースの提供（事業化）。	
研究の進め方及び進捗状況（目標と対比して）		
保存株のデータベースの構築と新たな微生物の分離・保存を含め、研究の全般を通じてコア研究室との協力体制をとっている。また、8月より研究補助員を雇用し、更なる体制の強化による分担研究の進展を期待しているところであり、フェーズ に関してほぼ予定とおりの進捗である。		
主な成果		
具体的な成果内容：現在構築中の保存株が新規生理活性物質のソースと成りうる一例として、2つの細菌が産生するメラニン生成抑制物質に関する共同研究のため、新たな企業が本事業へ加入することとなった。		
特許件数：0	論文数：0	口頭発表件数：0
研究成果に関する評価		
1 国内外における水準との対比		
海洋由来の微生物を数万株の規模で分離・保存し、性格付けによってデータベース化するという研究はあまり行われていないことから水準そのものが存在しない。		
2 実用化に向けた波及効果		
保存株から事業化に繋がるような新規生理活性物質が一つでも多くスクリーニングされることが、本研究が目的としているリソース化（実用化）であると考えている。		
残された課題と対応方針について		
中間評価後中止。		

	JST負担分(千円)							地域負担分(千円)							合計
	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	小 計	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	小 計	
人件費	0	0	2,323	-	-	-	2,323	0	0	0	-	-	-	0	2,323
設備費	0	0	231	-	-	-	231	0	0	0	-	-	-	0	231
その他研究 費(消耗品費 、材料費等)	620	1,320	1,006	-	-	-	2,946	0	0	0	-	-	-	0	2,946
旅費	0	0	0	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	0	0
その他	0	0	0	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	0	0
小 計	620	1,320	3,560	-	-	-	5,500	0	0	0	-	-	-	0	5,500
代表的な設備名と仕様(既存(事業開始前)の設備含む) JST負担による設備: 小型乾熱滅菌器 地域負担による設備:															

複数の研究課題に共通した経費については按分する